

2026年 6月 16日

**「RICOH Innovation Fund」を通じて、
生成 AI 関連スタートアップの Weaviate 社と資本提携締結
～非構造化データの AI 活用を後押しし、連携による新たなソリューション創出を目指す～**

株式会社リコー(社長執行役員:大山 晃、以下 リコー)は 3 月 13 日、CVC(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)ファンド「RICOH Innovation Fund」を通じて、非構造化データに対応したベクターデータベースを提供するオランダ本社の Weaviate(共同創業者兼 CEO:Bob van Luijt、共同創業者兼 CTO: Etienne Dilocker、以下「Weaviate 社」と資本提携契約を締結しました。

本出資は、リコーのデータキャプチャ技術と、Weaviate 社の文脈(コンテキスト)認識型データベースを組み合わせた新たなソリューションの可能性を探求することで、デジタルおよび AX(※1)を通じて顧客を支援するリコーのグローバル戦略を推進するものです。

企業には、スキャンされた紙の書類や、PDF ファイル、メール本文、手書きメモなど、項目名やデータ形式が定まっていない非構造化データが膨大に存在しています。これらのデータは企業活動における重要な情報資産である一方で、従来のデータ管理手法では十分に活用することが難しく、AI 導入における大きな障壁の一つとなっています。生成 AI の活用が広がる中、こうした非構造化データを AI が扱える形、いわゆる「AI-Ready」(※2)なデータに変換し、企業の意思決定や業務に活用していくことが、生産性向上の重要なテーマとなっています。

Weaviate 社は、AI アプリケーション開発に必要な機能や各種インテグレーションを備えた、オールラウンド AI データベース(※3)を提供しています。オープンソースを基盤とし、開発者体験を重視した設計となっていることから、AI アプリケーション開発において有力な選択肢となっています。

また、従来の検索システムを発展させ、メモリ機能を組み込むことで、AI エージェントが時系列に沿ってコンテキストを保持・活用することを可能としています。これにより、従来技術のように都度リセットされる処理制約に対応し、必要な情報への確にアクセスできるようになるとともに、より正確で一貫性のある、文脈に基づいた応答の生成が可能となります。

さらに、非構造化データの整理にとどまらず、ベクターデータベースを基盤としたこれらの機能により、AI エージェントは過去のやり取りからの学習や企業内に蓄積された多様な情報へのアクセスが可能となります。これにより、より高度かつ中長期的な推論の実現および意思決定の精度向上に貢献します。

リコーは、今回の出資を通じて、Weaviate 社が推進する非構造化データの AI 活用のさらなる拡大を後押ししていくとともに、リコーが有する文書や帳票などから情報を取り込むデータキャプチャ技術と、Weaviate 社の文脈理解型データ基盤との連携の可能性を探求していきます。これにより、これまで十分

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL : 050-3814-2806 (直通) E-mail : koho@ricoh.co.jp
お客様の問い合わせ先

に活用されてこなかった非構造化データの価値を引き出し、企業内に蓄積された多様な情報を横断的に活用する新たなソリューションの創出につながることを期待されます。

リコー 経営企画本部 経営企画センター 鈴木 英司 のコメント

Weaviate 社は、オープンな技術とコミュニティを基盤に、AI が文脈を理解しながら情報を活用できるデータ基盤を追求し、生成 AI 時代における信頼性の高いデータ活用のあり方を示してきました。この度の連携を心から歓迎するとともに、パートナーとして共に価値創出に取り組めることを大変嬉しく思います。リコーは、こうしたビジョンと取り組みを尊重し、今回の提携を通じて、パートナーとして共に価値を広げながら、生成 AI の可能性を実際の業務や意思決定へとつなげていくことに取り組んでまいります。

Weaviate 社 共同創業者兼 CEO Bob van Luijt のコメント

Weaviate のオープンソースソフトウェアはすでに日本でその価値を証明しており、導入の拡大やコミュニティの活発化は疑いのないものとなっています。私たちは、この勢いを認識し、同じビジョンを共有するリコーとパートナーシップを結べることを大変嬉しく思っています。このエコシステムは、まさにこれから本格的に成長していく段階にあります。今回の資金は単なる資本ではなく、すでにコミュニティが築いてきたものをさらに加速させるための原動力です。今回の提携は、当社のグローバル展開における重要なマイルストーンであり、特に高度なニーズを持つ日本市場に対応するものです。今後の事業拡大においても、強固な開発者ネットワークの育成と、地域全体の技術発展に寄与するイノベーションの推進に引き続き取り組んでいきます。

リコーは 2023 年 11 月に本ファンドを設立し、BtoB スタートアップの成長支援を通じて、デジタルサービスの会社への変革の加速に取り組んでいます。今後も、オープンイノベーションを通じた協業・共創により、“はたらく”に変革を起こし続けることで、人ならではの創造力の発揮を支え、持続可能な未来の社会作りに貢献します。

(※1) AX(AI トランスフォーメーション)

AI を中核に業務プロセスやビジネスモデルを変革し、企業価値向上を目指す戦略的アプローチ。AI の普及を背景に、DX(デジタルトランスフォーメーション)の次の段階として注目されている。

(※2) AI-Ready

企業が効果的に生成 AI や機械学習を業務へ導入・活用できるよう、データ整理、基盤構築などの準備が整った状態。

(※3) オールラウンド AI データベース

AI アプリケーション開発の幅広いニーズに対応するために設計された、包括的な AI データプラットフォーム。

【出資先概要】

会社名	Weaviate
共同創業者兼 CEO	Bob van Luijt
本社所在地	Prinsengracht 769a, 1017JZ Amsterdam, the Netherlands
設立年月	2019年7月1日
事業内容	信頼性の高い AI アプリケーション開発を支援する、オープンソースの AI ネットワーク・ベクトルデータベースの開発・提供
公式サイト	https://weaviate.io/

■関連情報

RICOH Innovation Fund
<https://innovation-fund.ricoh/>

■関連ニュース

リコー、イノベーションの創出に向けてファンドを設立
https://jp.ricoh.com/release/2023/1108_1

*社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

｜リコーグループについて｜

リコーグループは、世界約200の国・地域で、AIをはじめとする先進テクノロジーと、長年培ってきたプリンティング領域の強みを基盤に、ワークプレイスにおける業務変革を支援するサービス・ソリューションを提供しています。また、商用・産業印刷事業や、インクジェット技術を応用した新たなソリューションの展開を通じて、お客様の価値創出を支えています(2026年3月期グループ連結売上高2兆6,083億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来90年にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>